

～学校・家庭・地域で通じ合う心～

協働通心 協働通心

平成30年度

第3号

発行元

草津市教育委員会

生涯学習課

9月になっても、残暑厳しい日が続いておりますが、幾分かセミの鳴き声が少なくなったような気がします。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

小中学校では2学期がスタートしていますが、この第3号では、1学期や夏休みに開催されました、小学生と来年小学校に入学する5歳児の取組について紹介します。

玉川小学校では、“55交流”＝小学5年生と玉川幼稚園の5歳児が交流する活動が行われました。この取組は、5歳児が来年小学校に入学するとき、ワクワクドキドキした気持ちの中の“不安な部分”を少しでも取り除くことができるようにと、そのとき最上学年になっている小学5年生と小学校の体育館で一緒に活動するものです。

5年生は、交流の日のために一緒に遊ぶ道具を作成し、当日は、出迎えから司会や運営まで、自分たちで行いました。玉川小学校クイズや、ドラえもんを一緒に歌ったり、じゃんけん列車をしたりしました。その後は、5歳児の手を引いて自分たちの作品に案内し、魚釣り、ビー玉を転がす迷路、ボウリング、もぐらたたき等に挑戦してもらい、一緒に楽しみました。

同じように、入学するときの不安を取り除くため、小学校の施設（図書館）を知ってもらう取組、オープンスクール＝『図書館開放』を南笠東小学校で夏休みに開催しました。ここには、入学前の園児のほか、地域の方も自由に入っていただくことが可能です。また、夏休みということもあり、小学生や卒業した中高生が、自主学習として活用しています。1日の間に「読み聞かせタイム」があり、その時間帯は自主学習をしている児童生徒も、教え合いをやめて、絵本に聞き入っています。



このような機会に出会い、顔を覚えた子どもたち同士が、自分たちが住む地域や地域の行事で出会い、声がかかけ合えるとさらにつながりが深まります。そのような子どもたちの結びつく機会を大事にしたいものです。